

未来社会を切り拓く資質・能力の育成
 ～関わり合い 個を磨き 笑顔かがやく授業の創造～

会津若松市立謹教小学校
 教諭 芹沢 志保

1 実践の内容・方法

(1) 教育課程の編成・実施・評価・改善について（教務主任として）

本校は、会津地域における研究推進校として、これまで46回にわたり、毎年6月に公開授業研究会を開催している。令和2年度からは、現在の「未来社会を切り拓く資質・能力の育成」をテーマに研究を進め、今年度は、副主題を「～関わり合い 個を磨き 笑顔かがやく授業の創造～」と設定し、第2期1年次の研究を推進している。

研究の内容としては、子供たちに未来にわたり社会で必要とされる資質・能力を育成するためにカリキュラムマネジメントを推進し、教科等横断的な教育課程を編成・実践・評価・改善することである。さらには、各教科、領域等において、学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成を目指し、教科等横断的な学習の一層の充実を推進していくことが必要である。

私は、本校勤務3年目であるが、令和4年度から教務主任を務めている。上でも述べたように本校は、教科等横断的な教育課程を編成し、子供たちに学習の基盤となる資質・能力を育成することを研究の柱としている。そのため、教育課程編成会議の企画・運営についても、研修主任と連携して、教科等横断の視点に基づいた各種計画の作成や単元配列表（資料1）の見直しを行っている。また、今年度の反省に基づき、学校行事や教育活動について実施計画を立案し、教職員間の連絡調整を図りながら、スムーズな運営ができるよう努めてきた。

（資料1） **第5学年 単元配列表**

（各教科等の内容を関連付けることで、教科等横断的な学習の充実を図る）

月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
国語	教えて、あなたのこと かんがえるのちがいをあきらめず 登場人物どうしの 関わりをとらえ、感 想を伝え合おう ・伝えつけてよ 国語科を学ぶのちがいをあきらめず 春の空	あいて、あいて、あいてあいて 文章の裏書きをとら え、自分の考えを 表現しよう ・見立てる ・言葉の意味が分か ること ・場面と結果 漢語、和語、写実画	日常を十七音で 古典の世界（一） 目的に応じて引用するとき みんなが過ごしやすい町へ	同じ読み方の漢字 夏之夜 目的に応じて引用するとき 約束できるお話をしあひらの読み メモリーアイス	からたちの雷 どらもを運びますか 新聞を読もう 紙話 物語の全体像をとら え、考えたことを伝 え合おう ・たずねばあ	漢字の読み方と使い方 秋の夕暮れ えんぴつで先生の手紙のために 資料を用いた文章の効果 れを生かして書こう ・図有線が教えてくれること ・紙の資料の読み方 ・グラフの表を用いて書こう
書写	いつも 気をつけよう	字の形	書くときの速さ	漢字の組み立て		
算数	整数と小数のしく みをもとめよう 直方体や立方体のかき	変わり方を 調べよう かけ算の世界を 広げよう	わり算の世界を 広げよう 小数の 他	形も大きさも同じ 図形を調べよう	図形の角を 調べよう 整数の性質を 調べよう	分数と小数、整数の 関係を調べよう 分数のたし算、ひき 算を広げよう
社会	わたしたちの国土		わたしたちの生活と食料生産			わたしたち
総合	基盤の地盤探検 水路による町づくり					
理科	天気の変化	植物の発芽と成長	魚のたんじょう	花から実へ	台風の天気の変化	流れる水のほ
特活	今日から日考案 卒業のめあて 振替帳の計画	友達と仲良くしよう 集団活動の計画 卒業集会 教材研究	植物の発芽の観察 石も動かそう 卒業のめあて 学校の問題について わたしたちの生活と情報	卒業の問題について 1学期の反省 夏休みの計画	2学期の心構え 休日の仕事について 運動会のめあて 楽しい海浜教室	教材研究 ボランティア活動 日の過ぎるよう しりばき等の計画

(2) 地域との連携・協働による教育活動の充実（地域連携担当教職員として）

本校は、昨年度創立150周年を迎え、会津若松市において最も歴史と伝統のある小学校の一つであり、地域の方々も本校及び本校の子供たちを支援していこうとする気持ちが非常に強い。また、学区には地域学校協働本部が立ち上がっており、地域コーディネーターも存在する。この地域コーディネーターとの連絡調整を行い、社会に開かれた教育課程を実践していく必要がある。本校は、学校経営・運営ビジョンの目指す学校像の一つに「地域とともに歩む学校」を掲げている。その実現のためにも、地域の方のご支援ご協力をいただきながら教育活動を充実させていくことは大変重要である。

私は、地域連携担当教職員として、年度末に次年度の教育課程において、地域の方々に支援をお願いしたい単元等を学年ごとに取りまとめ、地域連携年間活動計画（資料2）にして地域学校協働本部のコーディネーターとの打合せを実施している。この際、具体的な活動の時期や内容、必要とするボランティアの人数等をお知らせすることによって、地域コーディネーターも1年間を見通してボランティアを確保しやすくなっている。また、依頼した活動の前には再び地域コーディネーターと連絡を取り、当初の予定の変更点や学年主任からの要望等を伝えるなど、連携を深めている。

（資料2） 地域連携年間活動計画

（年間を見通した地域人材活用の推進）

会津若松市立謹教小学校 地域連携年間活動計画（一部抜粋）							
	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二年	○生活科No.2 町探検（引率） （指導・交流）	●国語科 町探検感謝の手紙			○体育科 スキー（指導）		
三年	◎総合No.5 鶴ヶ城探検 （引率指導・ガイド）	○社会科No.6 店ではたらく人 （引率指導）		○書写 毛筆・書き初め（指導） ※特別非常勤講師 ○社会科No.7 消防署見学 （引率指導）	○体育科 スキー（指導）	○社会科 くらしの道具の移り変わり （引率指導） ○算数科 そろばん（指導） ※みとみ学園	●国語科 くらしの道具の移り変わり 感謝の手紙 ●国語科 そろばん指導 感謝の手紙
四年	○総合 森林環境学習・樹木観察（指導） ●数値パレード	○総合 森林環境学習・樹木観察（指導）	●国語科 森林環境学習・樹木観察 感謝の手紙	○書写 毛筆・書き初め（指導） ※特別非常勤講師	○体育科 スキー（指導） ○プログラミング 教室（指導）	◎総合 福祉体験（指導・交流）	●総合 福祉体験感謝の手紙

(3) ICTを活用した授業改善（理科指導を通して）

本校では、GIGAスクール構想により、一人一端末が配置される前の2019年度から日産財団の理科教育助成を受けた。これによりiPadや書画カメラ等のICT機器を活用し、理科の授業を中心に、その効果的な活用に取り組んできた。理科において、学び合いによる授業を展開する際は、互いの観察や実験の結果について差異点や共通点を比較したり、考察を関連付けたりしながら、学びを振り返り、次に繋げていくことが重要である。しかし、いつでも実験が成功したり、再現できたりするわけではない。そこで、ICTを効果的に活用することで、子供自身が必要なときに必要な動画等を振り返りながら学びを充実させる環境を整備し、GIGAスクール構想により、一人一端末が配置される前から、ICTを効果的に活用した理科の授業の充実と子供たちのICT活用技能を高めることが必要であると考えた。

私は、理科の分科を担当しており、本校の理科部の一員として、まずは、子供たち自身にタブレットを身近なツールとして活用させようと考え、理科の授業において様々な場面でタブレットの活用を試みた。最初はカメラとして空や青虫を撮影させたり、タブレットに実験や観察の考察を打ち込み、電子黒板で共有したりしながら、まずはICT機器に慣れること

を優先して取り組んだ。その結果、子供たちは、理科の授業においてタブレットを活用することが当たり前の状況になり、自分達で画像を共有したり、過去に撮影した動画を引き出して、振り返りを行ったりすることができるようになった。

① 実践例1 《 5年：理科「天気の変化」 》

最初は、各班に一つのタブレットしかなかったが、一人一端末が配置されてからは、さらに情報量が多くなった。校庭で動く雲の様子を撮影した際は、データが多く集まったことで、友達の動画と比較しながら考察することができ、本校の研究で目指している「関わり合う中で、学び合い、個としての考えが深まっていく」授業が実現できた。



② 実践例2 《 4年：理科「雨水のゆくえと地面の様子」 》

異なる種類の土に水を染みこませる数秒間の実験を動画で撮影した。実際の様子を見て気付いたことについて何度も動画で振り返ることができ、根拠を基にした話し合いが活発に行われた。また、単元の導入には校庭の様子をiPadで撮影した動画を編集して使用したことにより、単元を通して、子供たちの学習意欲を持続させることができた。



2 成果と課題

(1) 教育課程の編成・実施・評価・改善について（教務主任として）

① 成果

単元配列表を作成し、総合的な学習の時間、社会科、理科、生活科を中心教科とし、他教科に関連のある単元に結び付けたことにより、各教科等の学習で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら中心教科の学習に取り組む子供たちの姿が数多く見られるようになった。つまり、教科等横断的な学習の充実を図ったことで、学習の基盤となる資質・能力が身に付いてきたと考える。また、学んだことを日常の生活にも活用しようとする意欲が高まった。

② 課題

各教科・領域の学習において身に付けていく資質・能力と教科等横断的な学習で身に付けていく学習の基盤となる資質・能力との関連性を明確にしていく必要がある。

(2) 地域との連携・協働による教育活動の充実（地域連携担当教職員として）

① 成果

地域連携年間活動計画（資料2）を作成したことにより、地域コーディネーターも1年間を見通して、自分の活動予定を立てたり、人材を確保したりできるようになったと好評であった。また、教職員からも「地域人材を活用することで、様々な体験の機会が増え、教育活動の充実につながっている」といった声を多数いただき、「地域とともに歩む学校」の実現に寄与できた。

② 課題

校外学習等に地域の方にお手伝いいただくことは大変助かるが、事前の打合せ等の時間を確保することが難しく、逆に負担感を感じている教員もいる。

また、地域コーディネーターの都合もあり、教員からの急な要望には対応できない場合が多いため、できる限り年度末に先を見通した計画を作成してもらい、地域の方々に本校の教育活動に参加していただきたいと考えている。



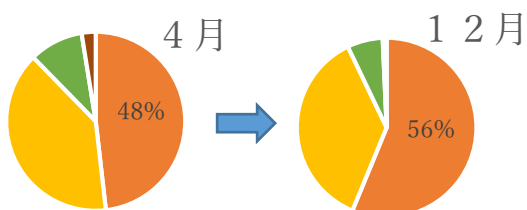
(3) ICTを活用した授業改善（理科指導を通して）

① 成果

4月と12月に、子供たちに学習に対する意識調査を行った。その結果を見ると、4月と比較して肯定的な回答を得られた項目が、12月では増加している。「主体的な学び」と「協働的な学び」に関する項目を見ると、「あてはまる」と答えた児童の割合が下のグラフのように変化した。ICTを用いて何度も事象を振り返ったり、互いの考えを関連付けたりしたことで、子供たち自身が学びの手ごたえを実感しながら授業に取り組むことができたことが推察できる。

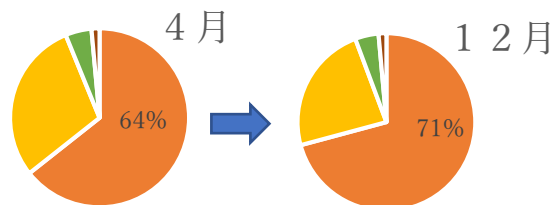
質問1

授業では自分からよく考える。



質問12

授業では友達と考えたり話し合ったりして手応えを感じる。



② 課題

現在は、一人一端末が実現して3年目となった。子供たちは、授業においてもタブレットを活用し、家庭に持ち帰って家庭学習にも活用している。タブレットの活用については今後もさらに推進していく必要があるが、それに伴って情報モラル教育の充実も必要不可欠である。

3 今後について

最近、小学校では、教員の大量採用に伴い、若手教員の比率が高くなっている。また、若手教員とベテラン教員の二極化が進み、30代、40代の教員が非常に少ない。本校においても学年2クラス中、1クラスは50代のベテラン教員、もう1クラスは20代の若手教員という構成となっている。ベテラン教員と若手教員では、指導力にも大きな差があり、保護者も不安を感じている。私は教務主任として、これからの大きな課題は、若手教員の育成であると考えている。ベテランも若手もともに研修を重ね、保護者、子供に不安を感じさせない教育活動を展開するために引き続き尽力したい。